

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 614

所管部局	教育委員会	所管課	学校教育課	担当者名	上西 奈穂
事業名	運動部活動等活性化推進事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	運動部活動等活性化推進事業			政策体系	122
会計	一般会計	科目	10.教育 - 1.教育 - 2.事務		

1. 事業の概要

園部中学校を実践校として指定し、市教委と連携しながら複数校合同運動部の在り方についての実践研究を行う。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

体育の授業や運動部活動等の活性化を通じて、児童生徒がスポーツの楽しさ、爽快感、達成感などを体験する機会を豊かにすることにより、生涯にわたりスポーツに親しむ基礎を培うとともに、体力の向上を図るための事業である。

② 事業を実施する必要性

ここ数年で、中学校の運動部活動の競技人口が減少していることから、小学校・高等学校との合同練習などに取り組むことにより、部活動を活性化させるとともに、地元で育てられた選手が地元で活躍できる場や環境を整えていく必要がある。

3. 事業費の推移

		単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額		千円				784		0	0
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円				0		0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円				0		0	0
	国・府支出金	千円				784		0	0
	地方債	千円				0		0	0
	一般財源	千円				0		0	0
職員等の従事人員		人/年	—	—		0.10			
人件費		千円	—	—		623			
事業費総額		千円	—	—		1,407			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

実技講習会の実施	192,500円（外部指導者謝金）
	34,560円（外部指導者旅費）
	149,950円（バス借上料）
各運動部必要物品購入	389,224円（ボール等消耗品）

5. 事業結果の概要

各部における中高合同練習会及び実技講習会
 練習会 月1回程度
 実技講習会 年1回
 高等学校での実技講習会参加と合同練習
 参加回数 2回
 小・中学生を対象としたバスケットボール実技講習会及び交流試合
 実施回数 2回
 小・中学生を対象としたバレーボール実技講習会
 実施回数 男子2回、女子1回
 小学生の少年少女剣道クラブと合同での剣道合同練習会
 実施回数 1回
 小中合同での陸上及び駅伝講習 実施回数 2回
 野球・陸上競技を中心とした中・高合同でのトレーニング講習会 実施回数 1回

■園部中学校を実践校として指定し、小学校や高等学

校との合同練習を実施したり、専門家による指導を受けることで運動部活動の活性化を図った。

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
●文部科学省との委託契約締結 784,223円	平成21年5月1日	
●中校合同練習会及び実技講習会の実施	平成21年7月より月1回程度又は年1回	
●ソフトボール実技講習会	平成21年12月12日、13日	
●バレーボールにおける実技講習会への参加と合同練習	平成21年12月23日	
●バスケットボール実技講習会	平成22年2月21日	
●小学生の少年少女剣道クラブとの合同練習会	平成22年2月28日	
●中高生を対象とした陸上競技教室	平成22年3月6日	
●小・中学生を対象としたバレーボール実技講習会及び交流試合	平成22年3月6日、7日	
●野球を中心とした中・高合同でのトレーニング講習会	平成22年2月28日 3月14日	
●小・中学生を対象としたバスケットボール実技講習会及び交流試合	平成22年3月6日、14日	
●文部科学省へ実績報告書提出	平成22年3月	

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

高校の指導者やトレーニングの専門家の指導にふれることで、生徒の競技に対する意識が高まり、教職員にとっても、今までに無い指導の視点や理論を学ぶ機会となった。今後、得た内容のマニュアル化をしていくことが課題として残っている。指定事業としては、今年度で終了するが、来年度以降も小学生や高校生との交流を計画的に実施していく必要がある。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

--